

校長室だより

令和8年 7月 10日（金）
第 15 号
十日町市立中条中学校校長室

わたしの主張 校内意見発表会（その1）

7月9日（木）に「わたしの主張校内意見発表会」を行いました。ここまでの過程は、全校生徒が意見文を書く→クラスの小グループ内での発表→クラス内発表を経て、各学級代表生徒が選出されています。当日は1名が欠席で、5名が発表しました。それぞれの主張のポイントと思われる部分を紹介し、校長なりの感想を添えます。要旨では、生徒の思いを十分伝えられないと思いますので、発表原稿の全文は後ほどホームページにて紹介します。発表順に今回は3名紹介します。※発表原稿は、生徒により「常体」と「敬体」ですが、そのまま紹介します。



「絶滅危惧種は保護すべきか」 1年 男子

みなさんは絶滅危惧種（レッドリスト記載種）のことを考えたことはありますか。絶滅危惧種とは、これから絶滅する恐れが高い動植物のことで、みなさんはこの生物たちを保護するべきかどうかどうでもいいどちらですか。



僕は守るべきだと思います。5月の上旬にぼくは友達と一緒に昆虫を観察しに行きました。そこで見たのは、絶滅危惧2類に分類されているトゲアリというアリでした。僕はこんなかったいいアリを絶滅させられては困るとおもいました。

僕はトゲアリなどの絶滅危惧種を守るために、しっかりと問題を見極めて、やることを探してほしいと思います。例として、不必要な森林伐採を行わない、森を管理するなどをしてもらうことや、森を壊さないことなどをしてもらいたいです。自分でできることもあります。昆虫がこの世界からいなくなれば、植物がなくなり動物もいなくなります。もし世界の未来を考えるなら、あなたはどんなことをしますか。

沖縄県などに生息するヤンバルホソヒゲコウモリも森林伐採や道路建設が原因で数を減らしている。石垣島に生息するサキシマカナヘビは2020年に国内希少野生動植物種に指定され、捕獲・販売などが禁止されました。これも人間のせいで、人気があるために乱獲されたのです。このようなことがないように自然を大切に生きてほしいです。

絶滅危惧種についての事例をよく調べてまとめています。絶滅危惧種を保護するべきだという立場から、個々の事例を分析し、どう取り組むかの提案をまとめています。個人でできることは限られているかもしれませんが、仲間に呼びかけたり、話題にしたりしながら、自然愛護を推進してほしいと思います。そして、将来自分でできることを見付け、提案できるようになることを期待しています。

「努力はあなたの結晶」 1年 女子

私たちは努力をすることでどう変わるのか、私はある出来事によってこの疑問の答えを見つけることができ、気持ちが一変した。

その出来事とは、5年生、6年生が出場した陸上競技大会。5年生のとき、私は得意な短距離走に出場した。得意なこともあり、見事入賞ができた。そんなとき先生に声をかけられた。「ハードルに挑戦してみないか？」その夜、私はずっと考えていた、ハードルにしてみようかなと。とても悩んだ末、ハードルに挑戦することに心を決めた。それまで短距離だけをしていた私は、別の種目、新しいことに挑戦したくなったのだ。

それからの私は、学校でも家でも練習を重ね、ついに本番を迎える。自己ベストを出し、

練習のときには負けると思っていたライバルにも勝てた。優勝はできなかったが、絶対に負けたくなかった気持ちから、努力をしてライバルに勝ったことがなによりうれしかったことを覚えている。

今年、中学に入学した私はバレー部に入った。バレー部の先輩はとても強く、練習のときから本気で努力している。先輩の姿を見たとき、私は思った。私が経験した努力と少し違う。今までは一人で練習し、自主練習をすれば強くなっていく、しかし、バレーは一人では動かない、チームで動くのだ。今の私は、チームということを大切にしながら頑張っている。これらの出来事を踏まえて、私が思うことは、小さい出来事も積み重ねていけば大きな希望になるということ。



最初はあきらめかけたことでも誰かの一言や行動で大きく成長していく。私があなたに伝えたいことは、辛くてもあきらめず努力をしていってほしい。そして、失敗しても小さいことから積み重ねていく努力している人は、恥ずかしくもない立派な人だ。

小学校時代の陸上競技での個人の努力、中学校でのバレーボール部の先輩の姿で見たチームとしての努力、個人と団体の両方の経験から、努力することとは何かを分析しています。努力は「自分自身が辛くてもあきらめないこと」、「他の誰かの一言や行動で成長すること」、「積み重ねていくことの大切さ」これらをこれからの生活の中で、自分の心の中で常に意識していればどんどん素晴らしいものになっていくと感じます。

「私しか見れない景色」 2年 女子

みなさんは、「部活」というものをどのように考えてますか？今年の春休み明け、左足の股関節に痛みを感じました。ここが、私の人生で一番の困難でした。

負けず嫌いの私は、痛みがありつつも走ることにしました。「きっと大丈夫」と思い走ってみると最初に痛みを感じた日以上に痛みと感じました。整形外科の診察をしました。さっき撮ったレントゲンを整形外科の先生にみてもらおうと予想外の言葉が返ってきました。「剥離骨折ですね。しばらくは運動禁止ですね」と言われ、目から涙がこぼれていました。私の大好きな運動ができないという失望感に浸りました。

数日後に2回目の診察に行きました。すると病院の先生からは「骨が結構くっついてきていますね。運動も本気を出さなければいいですよ」と言われました。私はやっと運動に復帰できるとうれしい気持ちになりました。痛みももうなくなっていました。

病院で運動復帰許可がでてから約2週間後…選手権大会が開催されました。私は100mと200mと4×100mリレーに出場しました。100mは自己ベスト更新することができました。一走の先輩が走り出して私は走るのを構えませんでした。私は全力で走りました。ですが、他校のチームとの差は中々縮まりませんでした。活躍することができなくて私は落ち込みました。その状況に気づいた部員の子が私に声をかけてくれました。

閉会式本番、私は第2位の台に上がりました。そこでは私しか見れない景色がありました。表彰授与をされ、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。私はこの大会が一番悔しくて、一番うれしかったです。



スポーツにはケガはつきものです。残念ながら多くのスポーツ選手はケガを経験します。それをどう乗り越えていくかがとても大切です。大会を通してケガによりうまくいかなかった自責の念をかかえながらも、仲間に支えられて「私しか見れない景色」を見たことは何物にも代えがたいものです。この思いは次への活動のモチベーションにもなります。是非このような思いをまた味わえるように日々の努力に期待しています。

残りの3名の発表は次号にて紹介いたします。